

地域包括ケア時代の 薬局・薬剤師の役割



ファルメディコ株式会社
大阪大学大学院医学系研究科
生体機能補完医学講座
医師・医学博士 狭間 研至

第2回 地域包括ケアの実現を支える薬物治療

高齢者の「尊厳の保持」のために 大切なものとは

超高齢社会における地域医療提供体制は、高度成長期時代に設計されたものを修正していただくだけでは対応しきれないということもあったのでしょうか。2013（平成25）年に、厚生労働省は「地域包括ケア」という概念を打ち出しました。

その目的は、要介護高齢者をみんなで力を合わせて支えていく仕組みをつくること——そう思っている方も多いかもしれません。実は私もそうでした。もちろんそれは大切なことですが、厚労省のホームページによると、その目的は高齢者の「尊厳の保持」と「自立生活の支援」なのです。私はちょっと意外であるとともに、医療、とくに薬物治療の大切さを感じたのでお伝えしたいと思います。

尊厳というのは大変な言葉です。漢字を見ると尊厳かなこと、と読むことができます。たとえば良くないかもしれませんが、私が直感的に思ったのは「トイレは自分でできる」ということでした。もちろん、自分が将来、歩行や移動に介助が必要になることがあるかもしれません。しかし、排泄については、一番大事な（？）ところは自分でトイレのなかで済ませたいと思うのです。

2年ほど前、私が担当している車椅子生活だった患者さんが、訪問リハビリの成果があって、つかまり立ちと車椅子への乗り降りが自分でできるようになりました。「良かったですね！」と声をかけると、「先生、何が一番いいって、これでトイレに自分で行けます。そして両足で立つことができるので、パンツの上げ下げが自分でできるようになりました。人の手を借りなくていいので、本当に嬉しい！」とおっしゃいました。

下着の上げ下げや、便意がわかり排泄がある程度コントロールできるためには、認知症や脳梗塞、廃用性萎縮などがあってはいけません。これらを回避するためには、生活習慣病が投薬を含めて長年にわたりコン

トロールされている必要があります。さらには、高齢者であることから、薬の副作用によって、認知症様症状やめまい、ふらつきなどが起こらないように注意しなくてはならないでしょう。要介護高齢者の日常生活において、「入浴・食事・排泄」の生活介護は重要ですが、いずれも本来は自分が好きなように、自分で行えることが大切です。その最たるものが排泄だと思いますが、患者さんの「尊厳の保持」のために、薬の果たすべき役割は大きいと感じます。

「自立生活の支援」にも 薬は重要な役割果たす

一方、「自立生活の支援」にも、薬は重要な役割を果たします。プライバシーという言葉がありますが、誰も自宅や自室など、自分のプライベートなエリアに他人がどかどかとうってくることを好みません。これは、私たち医師や薬剤師による、自宅や介護施設の居室訪問でも同じです。体調や病状が許せば、自宅であれば寝室以外の場所で、介護施設であれば居室以外のところで、診察し服薬指導をすることが本人にとっては望ましいのではないかと自分自身に置き換えてみるとそう思います。

そのためには、血圧の変動や動悸・息切れなどの身体的症状が安定しているのはもちろんのこと、下肢筋力がある程度保たれ移動が可能なこと、昼夜逆転やせん妄がなく日常生活が安定していることなど、種々の条件が整っている必要があります。これらも、服薬コンプライアンスが保たれ、副作用がない状態で効果がきちんと発現していることが重要ですが、剤形、用法・用量の問題に加え、やはり薬剤師が投与後の状態を確認していくことで支えていける分野でもあります。

薬剤師による薬学的アセスメントの実施に加え、医師と薬剤師が協働して薬物治療にあたることについての重要性は、「地域包括ケア」の実現に向けてさらに高まっていくと確信しています。